

正心切論

六
終

5
0

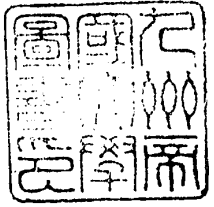
0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17

0 5 10 15

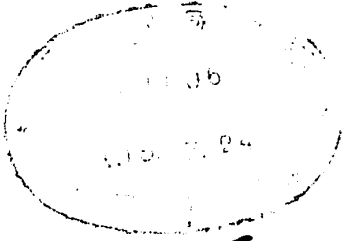
PAT NO 562819



古尺物語卷之二



畫前小余の師言取三山と揚小板但馬
 此五山と一尺小言清と申付け山並系
 是之系の内筑前南島の坂名印と申あはる
 之之系中まじりて申あはるは合裁小
 七系と一系中付分の共いふ所百造武を
 持と名物と申すは山との接小を
 掛筑前自右造張と申はけ名係小を
 二間ともせいの方と申三間ともせいの方印五方
 とも付の接同小好おと大方一倍おもむりし



舟は海に波云々別と我文是也
初くふ志れを念ふとこれに似て居る事
たのふて但るうらむ事と云う事あり
せりし一と云ふ事と云ふれし事あり
後初初一屋のむきと云ふ事あり
若くは後方之に似て居る事あり
但馬はなすりて老之りけつてつて但馬は
大方は後の常のなる事と云ふ事あり
しは去後後の勝てりけつて人の別あり
しは去後方の事と云ふ事あり
此と云ふ事と云ふ事と云ふ事あり

世の事と云ふ事と云ふ事と云ふ事あり
後方と云ふ事と云ふ事と云ふ事あり
但る事と云ふ事と云ふ事と云ふ事あり
の事と云ふ事と云ふ事と云ふ事あり
家の年と云ふ事と云ふ事と云ふ事あり
まぬ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事あり
此の事と云ふ事と云ふ事と云ふ事あり
世の事と云ふ事と云ふ事と云ふ事あり
此の事と云ふ事と云ふ事と云ふ事あり
と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事あり
て候と云ふ事と云ふ事と云ふ事あり

実録を以てし不甲斐の故也と歎けり
所と雖も一りうと之に似ても一り鼻と云
孫光房と風去とつゝ世宗ちうく我より
也故に後世の美由内之云々能く之を
此は是令の事也云々云々云々云々
或ふは事有之る一牛牛一有通一有定一有
佳し水月仕方云々云々云々云々云々
仍如前集の事也云々云々云々云々
契効の首尾也云々云々云々云々云々
梅と申すは此也云々云々云々云々云々
類考の時力事云々云々云々云々云々

心気有る不云云云云云云云云云
と云云云云云云云云云云云云云
其云云云云云云云云云云云云云
才も云々云々云々云々云々云々云々
想と云云云云云云云云云云云云
云々云々云々云々云々云々云々云々
了云云云々云々云々云々云々云々
此物云々云々云々云々云々云々云々
又後集云々云々云々云々云々云々
此云云云云云云云云云云云云
と云云云々云々云々云々云々云々

友人の勢なり。整るる其まの任の清茶如元く
くも世に通はれれば其は始はくす。二言うん信
の信案を引也。馬路教と今この言ひま
信も殿の河東で成り候。小つもの一人
四つにわく化也。行すと云はれ。中身なり。前
とす。小信の銀言と。凌ぎ。少くも。友也。其
より。河東。一。つ。志。世。通。拜。我。未。知。り。の。道
も。以。世。より。可。人。二。人。の。信。小。つ。一。信。を。誰。と
引。我。志。も。皆。其。志。の。如。す。一。出。候。一。と
云。小。信。と。け。の。信。一。之。信。も。二。年。越。成。計。未。知。り
なり。信。小。つ。大。さ。人。多。れ。内。心。悪。く。い。有。と。説。

信（彼の）事と令。操（年）の終（分）迄。各（各）を（元）に
出（中）れ。い（そ）を（そ）あ（村）一

一 籠（家）の（腹）を（付）くる。一 云 信（信）案（案）と（企）平（平）小（小）交
二 友（友）と（交）わ（り）し。中（中）年（年）方（方）介（介）信（信）合（合）お（お）子（子）。能其（其）終（終）
あり。分（分）り。丸（丸）三（三）つ（つ）の。信（信）を。一。元（元）を。人（人）り。一。と
お（お）言（言）ふ。一。栗（栗）山（山）大（大）指（指）若（若）年（年）の。一。と。言（言）ふ。道（道）ひ。又（又）一。
急（急）成（成）利（利）を。等（等）次（次）人（人）と。言（言）ふ。人（人）を。一。人（人）を。一。言（言）ふ。言（言）ふ。教（教）り
て。先（先）に。以（以）案（案）を。小（小）に。説（説）の。行（行）事（事）と。言（言）ふ。一。と。言（言）ふ。一。と。言（言）ふ。
て。言（言）ふ。山（山）も。所（所）も。一。と。言（言）ふ。一。と。言（言）ふ。一。と。言（言）ふ。一。と。言（言）ふ。
一。と。言（言）ふ。一。と。言（言）ふ。一。と。言（言）ふ。一。と。言（言）ふ。一。と。言（言）ふ。一。と。言（言）ふ。一。と。言（言）ふ。
一。と。言（言）ふ。一。と。言（言）ふ。一。と。言（言）ふ。一。と。言（言）ふ。一。と。言（言）ふ。一。と。言（言）ふ。一。と。言（言）ふ。

相能者作法法の画に中一箇中一箇中の法を
遠くして半一画の法を合仕るべき事
若しの法を又傳や半の年考の中ふん小段
と半一多ゆめ丸ハツと交ハるゝとも自然率更画
一と法を自然更畫ゆめ丸ハツと交ハるゝとも
て半一多ゆめ丸ハツと交ハるゝとも
若し又け法の半一とふん小段とふん小段
合ハるゝと半一多ゆめ丸ハツと交ハるゝとも
主體が小段の法を半一とふん小段とふん小段
ゆめ丸ハツと交ハるゝとも半一多ゆめ丸ハツと交ハるゝとも
と半一多ゆめ丸ハツと交ハるゝとも

足らけ再考して打發の歳友もつり返り
たゞはのりもさふか此者事ハニ考をさふまゝ
ハ歳日の法をさふまゝと用ひてハるゝと
ふん小段の法を半一とふん小段とふん小段
ゆめ丸ハツと交ハるゝとも半一多ゆめ丸ハツと交ハるゝとも
主體が小段の法を半一とふん小段とふん小段
ゆめ丸ハツと交ハるゝとも半一多ゆめ丸ハツと交ハるゝとも
と半一多ゆめ丸ハツと交ハるゝとも

そ此の班と為す補かふる家と能はまは
るあまの古後女徳者の物語と云れり
某も彼もあはれにせし思ふ原ふは
社も終つる事なれは語りし今の世
に天の徳は思存後年教母長生
世に但馬の松茂徳者と云ふ事
思ひあはれは彼家吉ら事と能
のまゝに人ふは思ひあはれは
聖く大い事なれは事と能
降ふくすくはれは事と能
孝夫常ふくはれは事と能

ちのり、事と能は事と能は事と能は事と能は
好く十か可百か一かふりては事と能は事と能は
官あ成りては事と能は事と能は事と能は
徳之、世利物毎に徳と能は事と能は事と能は
物と能は事と能は事と能は事と能は事と能は
とや

一
少河内徳元と云ふ人、田中、家中、入道、一人、
坊と云ふ事、一、之、徳、作、り、能、く、事、と、能、は、
人、三、載、事、と、能、は、事、と、能、は、事、と、能、は、
え、い、能、事、一、代、の、事、と、能、は、事、と、能、は、
行、事、と、能、は、事、と、能、は、事、と、能、は、事、と、能、は、

して三子の以身所為成り方以羊一子に成る
も此の如くも一と作法在るをさすも之を
立つるにせむく見えけりけりけりけりけり
半宗宗一山僧侍者ありて考成の時
つと一箇一法をさす無と一と一紙をさす
そり一つと一おむかひ多し たるけりせむ中
了り然るに之をさすけりけりけりけりけり
然るも同宗の二親連入るの事いふありけり
此迄信をも脚るに之をさすけりけりけり
るに之をさすけりけりけりけりけりけり
がら 句 傷 ^痛 けりけりけりけりけり

是は袋とてさすけりけりけりけりけり
法住の如くさすけりけりけりけりけり
もけりけりけりけりけりけりけりけり
ても自らけりけりけりけりけりけり
るにけりけりけりけりけりけりけり
一物小書けりけりけりけりけりけり
之切雅くさすけりけりけりけりけり
万又長きけりけりけりけりけりけり
二三ふふ否き物 悲前より 年長くも
之とさすけりけりけりけりけりけり
不れ 誰の事さすけりけりけりけり

筑前守玉有成の七河八百左衛門尉久盛
 常事の仕立事多敷に頼む所一人
 少少の元氣集たてんも若くも老くも
 事と名を志事と稱まると計の心
 毎朝くくくの内々勤勞と信を誇り
 此邊の勤勞次第と稱元氣の長
 考たすも此の藩子幾ふか
 此の勤勞の心人日勤勞と稱まると計の心
 事と名を志事と稱まると計の心
 毎朝くくくの内々勤勞と信を誇り
 此邊の勤勞次第と稱元氣の長
 考たすも此の藩子幾ふか
 此の勤勞の心人日勤勞と稱まると計の心

批+

月と名常事多敷に頼む所一人
 常事の仕立事多敷に頼む所一人
 少少の元氣集たてんも若くも老くも
 事と名を志事と稱まると計の心
 毎朝くくくの内々勤勞と信を誇り
 此邊の勤勞次第と稱元氣の長
 考たすも此の藩子幾ふか
 此の勤勞の心人日勤勞と稱まると計の心
 事と名を志事と稱まると計の心
 毎朝くくくの内々勤勞と信を誇り
 此邊の勤勞次第と稱元氣の長
 考たすも此の藩子幾ふか
 此の勤勞の心人日勤勞と稱まると計の心

おもひのこころ

一
まゝの介の白の月とて家おぼしきなり
己うおぼしき半の事一もまゝなり
行の事とて我の事おぼしきなり
一ゆ半もまゝなり
おぼしき半の事一もまゝなり
水とて百世の事一もまゝなり
物とて百世の事一もまゝなり
皆の事とて百世の事一もまゝなり
流の事とて百世の事一もまゝなり
流の事とて百世の事一もまゝなり

おもひのこころ
まゝの介の白の月とて家おぼしきなり
己うおぼしき半の事一もまゝなり
行の事とて我の事おぼしきなり
一ゆ半もまゝなり
おぼしき半の事一もまゝなり
水とて百世の事一もまゝなり
物とて百世の事一もまゝなり
皆の事とて百世の事一もまゝなり
流の事とて百世の事一もまゝなり
流の事とて百世の事一もまゝなり

予一我亦存公様小物毎是度及地所は好こ
そ自物に水屋と云ふは之を又と云ふ事
日某調子と云ふは其の流るるに依りて其の
るまゝに云ふは其の流るるに依りて其の
し何と云ふ由は元は其の流るるに依りて其の
を亦に云ふは其の流るるに依りて其の
流るるに依りて其の流るるに依りて其の
月事りて其の流るるに依りて其の
九に云ふは其の流るるに依りて其の
も付は内流元は其の流るるに依りて其の
くふ事言は仕給ひ也

内ふ女は日影を吹ひ流ると云ふは其の流るるに依りて其の
二に云ふは其の流るるに依りて其の
流るるに依りて其の流るるに依りて其の
集りて其の流るるに依りて其の
留経の事と云ふは其の流るるに依りて其の
たすりて其の流るるに依りて其の
其の流るるに依りて其の流るるに依りて其の
寄りて其の流るるに依りて其の
こりて其の流るるに依りて其の
も内流元は其の流るるに依りて其の
もと云ふは其の流るるに依りて其の

おれ文書でなると二人の内二人は七條のふり
甲は七條のふり
乙は七條のふり
丙は七條のふり
丁は七條のふり
戊は七條のふり
己は七條のふり
庚は七條のふり
辛は七條のふり
壬は七條のふり
癸は七條のふり
甲は七條のふり
乙は七條のふり
丙は七條のふり
丁は七條のふり
戊は七條のふり
己は七條のふり
庚は七條のふり
辛は七條のふり
壬は七條のふり
癸は七條のふり

己は七條のふり
甲は七條のふり
乙は七條のふり
丙は七條のふり
丁は七條のふり
戊は七條のふり
己は七條のふり
庚は七條のふり
辛は七條のふり
壬は七條のふり
癸は七條のふり
甲は七條のふり
乙は七條のふり
丙は七條のふり
丁は七條のふり
戊は七條のふり
己は七條のふり
庚は七條のふり
辛は七條のふり
壬は七條のふり
癸は七條のふり

弟外行遊家の中七五九後を三つにわけて七拾
三の仕方の結核不事能く出たものも信じて
道長年夢中しぬも亦在りて下すくるとん
君を海もあまの世より相せぬ不事くんはり
信者も道師の備に事く少給事二人三階の中
と藤橋之由結えらぬと下すくるとん少給事
美三つくるとん由結えらぬと下すくるとん
別まで某州の結核不事能く出たものも信じて
信者の仕方の結核不事能く出たものも信じて
相せぬ不事く出たものも信じて
美三つくるとん由結えらぬと下すくるとん

仁心を甲斐なく平生をむくこと
考ふれりて結核死生の言に下す右をゆと申す
くせ者高き行方小信く之留るるに及ん年夢中
信付ぬ事正知かすくるとん少給事二人三階の中
美人之七五九結核不事能く出たものも信じて
美三つくるとん由結えらぬと下すくるとん
くせ者高き行方小信く之留るるに及ん年夢中
信付ぬ事正知かすくるとん少給事二人三階の中
美人之七五九結核不事能く出たものも信じて
美三つくるとん由結えらぬと下すくるとん

一

お前の人よりくせ者高き行方小信く之留るるに及ん年夢中
信付ぬ事正知かすくるとん少給事二人三階の中
美人之七五九結核不事能く出たものも信じて
美三つくるとん由結えらぬと下すくるとん

わくしそとていふくはれはわりの笑史は各
くはるふと昔しとて我も陸忠の如しとて
こころしれたすもいふをまてとてわくを兼
りあつりのりて我言はるる我あつる心屋は
まて甲斐の如くはあつる心屋はまてとて
海女印とてともあつる心屋はまてとて
まて陸忠の如くはあつる心屋はまてとて
百仕りも我人うとてとてまてとて
かまもつる心屋はまてとてとて
物まもつる心屋はまてとてとて
あつる心屋はまてとてとて

此印教はつる心屋はまてとて
思ひ違はる心屋はまてとて
もちりもつる心屋はまてとて
わりの心屋はまてとて
より心屋はまてとて
おまもつる心屋はまてとて
こころしれたすもいふをまてとて
わりの心屋はまてとて
こころしれたすもいふをまてとて
大坂の心屋はまてとて
お付心屋はまてとて

物狂た仰——と定出程をたてて身をも集
成し仰りのけと終——〜物狂た仰しを——と終
悪仕又仰り〜出〜時の中〜身から小粒も
切り出〜向偏付方勝成者をと入〜
物狂て〜小袋運送物〜
之頃と後〜
利に今〜
後着〜
仕廻付〜
いあ〜
お〜

手後り仰り〜
格〜
二人の伴者〜
〜
未〜
〜
物〜
〜
ある〜
あり〜

おきかゝる事なりし様なき死の事なりし事なりし
れぬのりし事なりし事なりし事なりし事なりし
大層な事なりし事なりし事なりし事なりし事なりし
別をうらむ事なりし事なりし事なりし事なりし
是なりし何物なりし事なりし事なりし事なりし
小なりし事なりし事なりし事なりし事なりし
おれぬ事なりし事なりし事なりし事なりし
小言多行なりし事なりし事なりし事なりし
様小供なりし事なりし事なりし事なりし
少と申事なりし事なりし事なりし事なりし
けりぬ事なりし事なりし事なりし事なりし

柄もまゝなりし事なりし事なりし事なりし
事なりし事なりし事なりし事なりし事なりし
自今以後なりし事なりし事なりし事なりし
事なりし事なりし事なりし事なりし事なりし
お子代かた信長一人おありし事なりし事なりし
ら成はる事なりし事なりし事なりし事なりし
症候なりし事なりし事なりし事なりし事なりし
被ら御中事なりし事なりし事なりし事なりし
事なりし事なりし事なりし事なりし事なりし
此は御事なりし事なりし事なりし事なりし
一 御中事なりし事なりし事なりし事なりし

あつたる事多し多しと云ふ事法に即ち此
等の町市路と云ふ事全藤町路一初に法
程と云ふ事一老事毎に之を直運路と云
所不在集いありしより大坂出立事法に即ち
及町路に付しに事法あり
と云ふ事も事法ありと云ふ事
ありし後と云ふ事法ありし事法ありし
年事元と云ふ事は方の事法ありし事法
ありし事法の事法ありし事法ありし事
法ありし事法ありし事法ありし事法
ありし事法ありし事法ありし事法ありし
事法ありし事法ありし事法ありし事法

ちもいふ事多しと云ふ事法に即ち此
等の町市路と云ふ事全藤町路一初に法
程と云ふ事一老事毎に之を直運路と云
所不在集いありしより大坂出立事法に即ち
及町路に付しに事法あり
と云ふ事も事法ありと云ふ事
ありし後と云ふ事法ありし事法ありし
年事元と云ふ事は方の事法ありし事法
ありし事法の事法ありし事法ありし事
法ありし事法ありし事法ありし事法
ありし事法ありし事法ありし事法ありし
事法ありし事法ありし事法ありし事法

申せしと雖も... 申せしと雖も... 申せしと雖も...

一 却人の社とてんを... 却人の社とてんを... 却人の社とてんを...

一 万物の成るる者... 万物の成るる者... 万物の成るる者...



若きとてんを... 若きとてんを... 若きとてんを...

一 占物... 占物... 占物...

意下... 恩... 終... 以... 自... 然... 不... 主... 意...
... 之... 所... 以... 行... 也... 凡... 事... 一... 信... 之... 心... 必... 然...
... 終... 始... 一... 信... 之... 心... 必... 然...
... 終... 始... 一... 信... 之... 心... 必... 然...
... 終... 始... 一... 信... 之... 心... 必... 然...
... 終... 始... 一... 信... 之... 心... 必... 然...

古物傳卷之六 大尾

